

「まちなか居住推進事業」とは、まちなかに“これからも住み続けたい”“新たに住んでみたい”“また訪れたい”と思う人が自然に集まるまちを目指す新しいまちづくりの取組です！
本紙やホームページを通じて、事業の取組状況を定期的にお知らせしています。
今回は、令和5年度に実施した**東本町小学校**と、令和6年9月に実施した**大町小学校**の「出前授業」の様子をお伝えします。

1. 東本町小学校総合学習テーマ“地元とともに生きる”

東本町小学校は、令和5年度の総合学習で“**地元とともに生きる**”と題し、高田のまちについて学びました。高田の町家で商売を営んでいる方からお話を聞いたり、歴史博物館を訪れ高田のまちの歴史を学ぶことを通じて、高田のまちに興味・関心をもちました。様々な体験を通して、子どもたちは高田のよさを改めて考えたり、これからの高田のまちについて考えを深めました。

① 東本町小学校 出前授業！

高田の人口が年々減少していることや、高田に住んでもらうため、上越市では地域と協働で「まちなか居住推進事業」に取り組んでいることを説明し、子どもたちの目線で高田のまちについて考えてもらうため、10月、12月に出前授業を行いました。

子どもたちは熱心に話を聞き、中には高田の人口減少を聞いて驚く子や、自分たちができることは何かと質問する子もいました。



② 高田のまちを盛り上げるには...

2月には、総合学習の集大成として、「**高田のまちを盛り上げるにはどうすればよいのか**」について子どもたちがそれぞれの意見を発表しました。

空き家を活用して、さくらを使用したスイーツや、地元のお米を使用したおにぎりなどを販売するといった意見や、高田のまちを多くの人に知ってもらうために、SNSを利用してまちの魅力をPRするといった意見がありました。



当時の6年生の学習の様子

③ これから高田のまちとどのように関わっていききたいか？

1年間の総合学習を振り返り、子どもたちが作文を書ってくれました！一部をご紹介します。



高田の人口が50年前から半分に減少していることを聞いたとき、このままだと高田に住む人がいなくなってしまうのではと思い、何とかしたいと考えました。
これまでの学習で高田の魅力をたくさん知りました。高田に住んでいる僕たちが魅力を発信し、多くの人に知ってもらうことで、まちがにぎやかになると思うし、そのためにこれからも高田の魅力を見つけていきたいです。



はじめは高田のまちは観光客が少なく、にぎわいのないまちと思っていましたが、1年間の総合学習を通して、私は高田のまちが好きになりました。たとえ大人になっても、高田のまちを好きな気持ちを持ち続けて、いつか映像を作成して高田の魅力をPRしたいです。高田の未来を良くして、高田出身と誇れるようなまちにしたいです。



高田のまちで生まれたから、ずっとここにいたいと思うのは普通かなと考えています。高田で店でも建てたいし、自分で高田の魅力をつくるのも楽しそうだと思います。たしかに都会は便利だし楽しそうだけれど、それでも今は少しでも長く高田にいたい。将来東京に行ったとしても、やはり一度は高田のまちに戻ってあたたいふるさどでゆっくりしたい。高田のまちとは一緒にいるようなそんな関係でいたいとぼくは考えました。



ぼくは、最初は全然高田に残りたいとは思わなかったけど、魅力があったら残りたいなと思いました。でも、魅力は自分で発信しないと生まれないから、自分でスマホなどを持った時に、高田にはこういう名産などがあるってどんどん発信していきたいです。高田がどんどん魅力的になっていくことを信じて、楽しい高田にしたいです。

2. 大町小学校5年生の“町家めぐり”

大町小学校5年生は、総合学習として“町家めぐり”（子どもたちは“町めぐ”と呼んでいるそうです）に取り組んでいます。“町めぐ”とは、町家をめぐり、高田のまちの回遊の仕方や魅力を発信しながら、町家や高田のより良い未来の姿を考える活動です。

この活動の一環として、上越市が地域と協働で取り組んでいる「まちなか居住推進事業」について授業を行いました。授業のテーマは、「みんなで考えるこれからの高田」です。



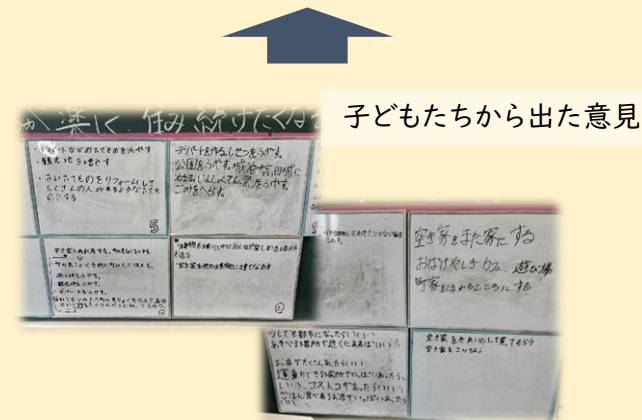
上越市や高田の現状
について学ぶ



子どもたちの活動の記録

① どうしたら高田のまちが楽しく、住み続けたいくなるか!?

- ・空き家を少し改造し、共同住居や商店街などを建てる
- ・町家ガイドをつくり、町家を観光名所にする
- ・遊べる場所や建物をつくる（お化け屋敷、デパートなど）
- ・高田の良い所をたくさんの人に知ってもらう
- ・空き家を再利用する
- ・町家を泊まれるところにする など



② 高田のまちの魅力を高めていくために、私が大切だと思うことは？

子どもたちがそれぞれの考えを作文に書いてくれました！一部をご紹介します。

【地域の課題や気づき】

- ・大切なのは協力することだ。一人の力では高田のまちの魅力を高めていくことはできないと思う。
- ・ぼくは空き家をつくらないことが大切だと思う。空き家が多いだけで、他の県の人からのイメージが悪くなったり、観光客が来なくなったりするかもしれない。
- ・まずは少子高齢化、人口減少の問題を根本的に解決させることが第一だと思う。その上で、空き家への対応、観光名所の拡張、商店街の再生が大切だと思う。このまま人が減ると、まちの改善どころか、市が一つ消えてしまうからだ。

【何ができるか】

- ・町家をカフェにすれば人が増えるかもしれない。空き家を再利用すればコストが減るかもしれない。
- ・楽しい場所に住みたいと思う人が多いから、ゴミ拾いをしてまちをきれいにする、空き家を再利用する、高田の魅力を知り合いの人に伝えることが大切だと思う。
- ・13歳以上向けにもバス停の近くにフリーWi-Fiの場所とか、学生無料カフェをつくったらどうだろうか
- ・空き家をリノベーションしてスタンプラリーを開催し、再利用を通じて高田だけの魅力を伝えたら魅力が高まると思う。ツアーなどを開くこともいい。まちの中に面白そうなゴミ箱を置くのもいい。

【なりたい姿】

- ・急に栄えて高田っぽくなくなったりするのではなくて、昔からの行事や今高田にあるものを大切にして、高田のよさを知ってもらえるようにする
- ・私が大人になる頃には、高田の人口が増えて、今よりもにぎやかになっているといいなと思う
- ・一気に都市化するのではなくて、地道に、高田らしさを残しながら、計画的に高田の魅力を高めていくことが大切だ

子供たちが大人になったとき、
このまちに“住み続けたい”と
思ってもらえるようなまちでありたいですね。
どうすれば“暮らしやすいまち”になるのか、
一緒に考えていきましょう！

